

第2期「北上市スポーツ推進計画」概要版

2026（令和8）年～2035（令和17）年度

本市のスポーツをめぐる状況 （令和6年度実績）

週1回以上運動やスポーツを行っている市民の割合

目標35% → 52.5%

国民スポーツ大会出場者数

目標50人 → 27人

小中学生の全国大会出場者数

目標40人 → 68人

東北規模以上の大会開催数

目標値20大会 → 32大会

スポーツ（学校開放含む）施設利用者数

目標値828,000人 → 670,930人

計画策定における社会情勢

スポーツが示した復興への貢献など
スポーツ自体が有する価値の再認識

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う
「新しい生活様式」でのスポーツの変化

独り暮らし高齢者や高齢者世帯の増加や
女性の社会進出と就労形態の多様化

オリンピックを契機とした
アーバンスポーツへの関心向上
（※都市を舞台とする、スケボー等のスポーツ）

パラリンピックを契機とした
インクルーシブスポーツへの関心向上
（※障害の有無・年齢・性別等に関わらずだれもが楽しめるスポーツ）

いわて国体等の大規模大会のレガシー継承

学校部活動の充実

少子化、長寿高齢化社会への対応

スポーツを取り巻く環境

多様なスポーツ機会の創出

複数の競技種目を経験することは身体機能の向上やケガの防止につながるだけでなく、複数のコミュニティへの所属を通じて、自身の社会性や協調性等を育む機会となっている

スポーツを通じた共生社会の実現

障がいの有無などに関わらず、スポーツを通じて人と人がお互いのことを理解し、支え合う共生社会の実現を目的とした取り組みが広がっている

人口動向

子育て世代や働く世代へのアプローチの検討や、高齢者の健康の維持・増進や介護予防、生きがいづくりにスポーツを選択してもらう取り組みが全国的に進められている

スポーツ分野におけるICTの活用

性別や年代、障がいの有無に関わらず、気軽にスポーツを楽しむ環境づくりにつながる、「新しいスポーツ活動」として展開する取り組みが進められている。コロナ禍を背景にスポーツのオンライン化も成長を続けている

総合的な子ども政策の推進

子どもの健全な育成や居場所づくり、体力低下への対策など、横断的に切れ目のない子ども・子育て政策に関するスポーツの取り組みが進められている

スポーツ・インテグリティの確保

一環とした選手育成や指導者育成のため、スポーツ関係者のコンプライアンス違反や体罰、暴力等を排除し、選手を最優先に考え、成長を支援する事やコンプライアンス意識等が徹底されたガバナンス体制の確保に関心が高まっている

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【目指す姿】
スポーツの力で人とまちが “いきいき” 輝き続ける -Sports City Kitakami-

基本方針 1

豊かなスポーツライフの実現

基本
施策

ライフステージに応じたスポーツ機
会の充実【重点】

誰もが参加できるスポーツの機会
創出

子どものスポーツ機会の提供

障がい者スポーツの普及と共生社
会の推進【重点】

スポーツを楽しむ環境の整備

基本方針 2

トップレベルで活躍する 競技スポーツの推進

基本
施策

トップレベルを目指すアスリートの発
掘・育成

競技力向上を支える人材の育成

競技力向上を支える環境の整備
【重点】

基本方針 3

スポーツを核とした まちづくりの推進

基本
施策

スポーツツーリズムの推進

市民がかかわりを持つスポーツ環境
の整備【重点】

スポーツボランティアの育成・活動
推進

計画全体の 目標値

市民（20歳以上）の
週1回以上の
スポーツ実施率

70%

2035（令和17）年

2024（令和6）
年

52.5%

【目指す姿】

スポーツの力で人とまちが “いきいき” 輝き続ける -Sports City Kitakami-

基本方針

【基本方針】

1 豊かなスポーツライフの実現

基本施策

【基本施策】

1 ライフステージに応じたスポーツ機会の充実【重点】

2 誰もが参加できるスポーツの機会創出

3 子どものスポーツ機会の提供

4 障がい者スポーツの普及と共生社会の推進【重点】

5 スポーツを楽しむ環境の整備

施策の方向性

- ①子育て・働き盛り世代への働きかけ
- ②高齢者が気軽に行うことができるスポーツの普及
- ③スポーツを通じた介護予防
- ④生涯を通じてスポーツすることができる環境づくり
- ⑤スポーツを通じた健康維持・増進

- ①スポーツに触れる機会が少ない方々への働きかけ
- ②スポーツに親しむことのできるイベントなどの実施
- ③新たなスポーツの普及啓発
- ④スポーツ観戦の機会促進
- ⑤障がい者スポーツの普及
- ⑥高齢者が気軽に行うことができるスポーツの普及

- ①子どものスポーツ活動機会の充実
- ②親子で体を動かす機会の充実
- ③フィジカルリテラシーの養成
- ④運動部活動の充実
- ⑤食育の推進

- ①障がい者スポーツの普及
- ②障がい者スポーツへの参加促進
- ③障がい者スポーツの指導体制整備
- ④障がい者スポーツの支援体制整備

- ①市内スポーツ施設の最適化
- ②市内スポーツ資源の利用促進
- ③スポーツ施設の効率的な運用

2 トップレベルで活躍する 競技スポーツの推進

1 トップレベルを目指すアスリートの発掘・育成

2 競技力向上を支える人材の育成

3 競技力向上を支える環境の整備【重点】

- ①国際大会や全国大会等に向けた支援の充実・強化
- ②ジュニア期における指導体制の強化
- ③トップアスリート育成のための指導者養成・確保

- ①スポーツ指導者の養成と資質の向上
- ②ジュニア選手の育成に携わる指導者の資質向上
- ③スポーツ指導者等の倫理・コンプライアンス強化の推進
- ④障がい者アスリート指導者の養成

- ①各種団体間の連携、協働の推進
- ②データ活用を通じたスポーツ環境の実現
- ③クリーンでフェアなスポーツの推進

3 スポーツを核としたまちづくりの推進

1 スポーツツーリズムの推進

2 市民がかかわりを持つスポーツ環境の整備【重点】

3 スポーツボランティアの育成・活動推進

- ①アウトドアアクティビティ等の活用
- ②スポーツイベントの誘致・開催
- ③スポーツ資源やスポーツイベントの情報発信

- ①総合型地域スポーツクラブの育成・推進
- ②各種スポーツ大会やスポーツイベントの開催
- ③地域ウォーキングマップの活用

- ①スポーツボランティア活動への関心喚起
- ②スポーツボランティアの募集・育成
- ③スポーツボランティアの活動機会の創出